



Mashiko

**TO the Gate of International, Mashiko**


梅川ゼミナール

根本堅太 池井戸晃輔 島元奈美 小原海裕

# INDEX

- ①地域選定、益子町の紹介
- ②現状と課題
- ③プラン内容
- ④PR方法
- ⑤効果
- ⑥まとめ





①地域選定  
益子町の紹介

# 益子町について



栃木県の中でも首都圏に近い  
場所に位置する

東京から電車・車で  
約2時間30分

栃木県益子町



Do you know 益子焼？





# 益子焼とは...

江戸時代末期に茨城県の笠間で修行した大塚啓三郎が窯を築いたことにより始まる。

優れた陶土を産出すること、東京に近いことから、鉢、水がめ、土瓶など日用の道具の産地として発展をとげた。



# 益子陶器市

春と秋の2回開催

販売店約50店舗と  
約500のテントが並ぶ

伝統的な益子焼から、日用品、  
美術品まで販売される

作家や職人から直接陶器を購入  
できる

春と秋を合わせて**60万人**の集客  
(益子町観光入込数の1/3)



# 秋の陶器市の経済波及効果

総合効果 17億2360万4692円

直接効果 11億2990万4395円

内、益子焼への消費額 約**4,829**円／人

(平成29年度「秋の陶器市における経済波及効果および観光客の飲食店利用等実態調査報告書」より)

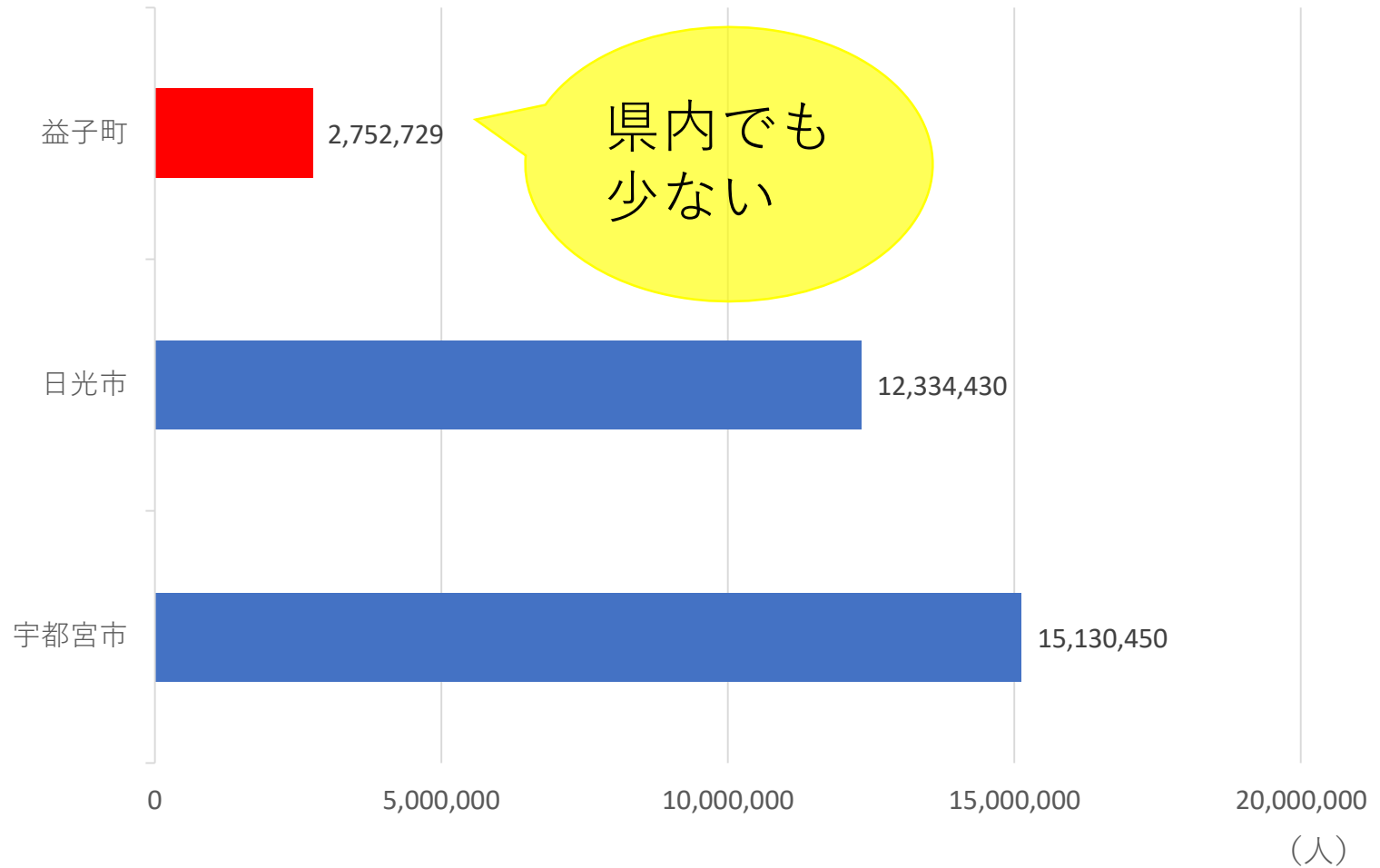




## ②現状と課題

# 栃木県市町村別観光入込客数（平成30年度）

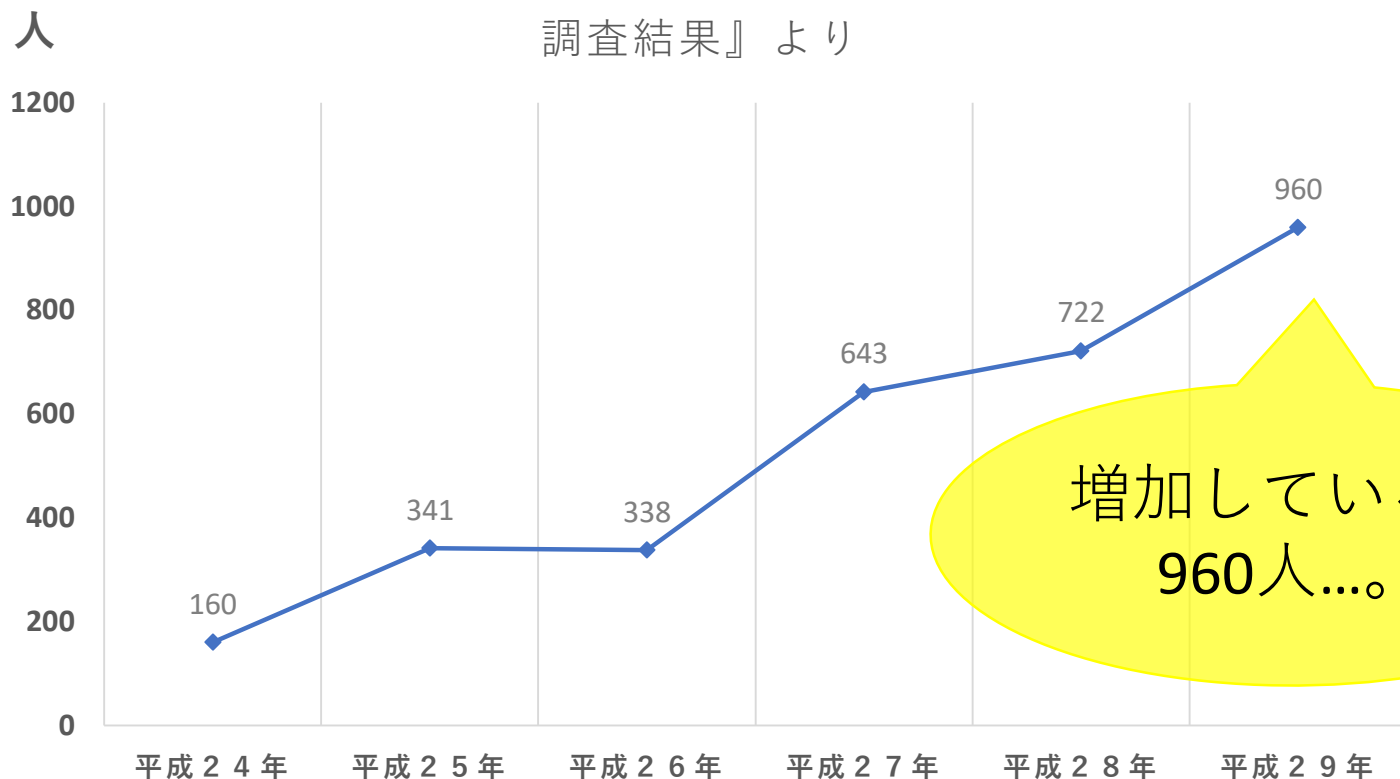
『平成30年栃木県観光入込数・宿泊数推定調査結果』より





## 益子町の外国人宿泊数

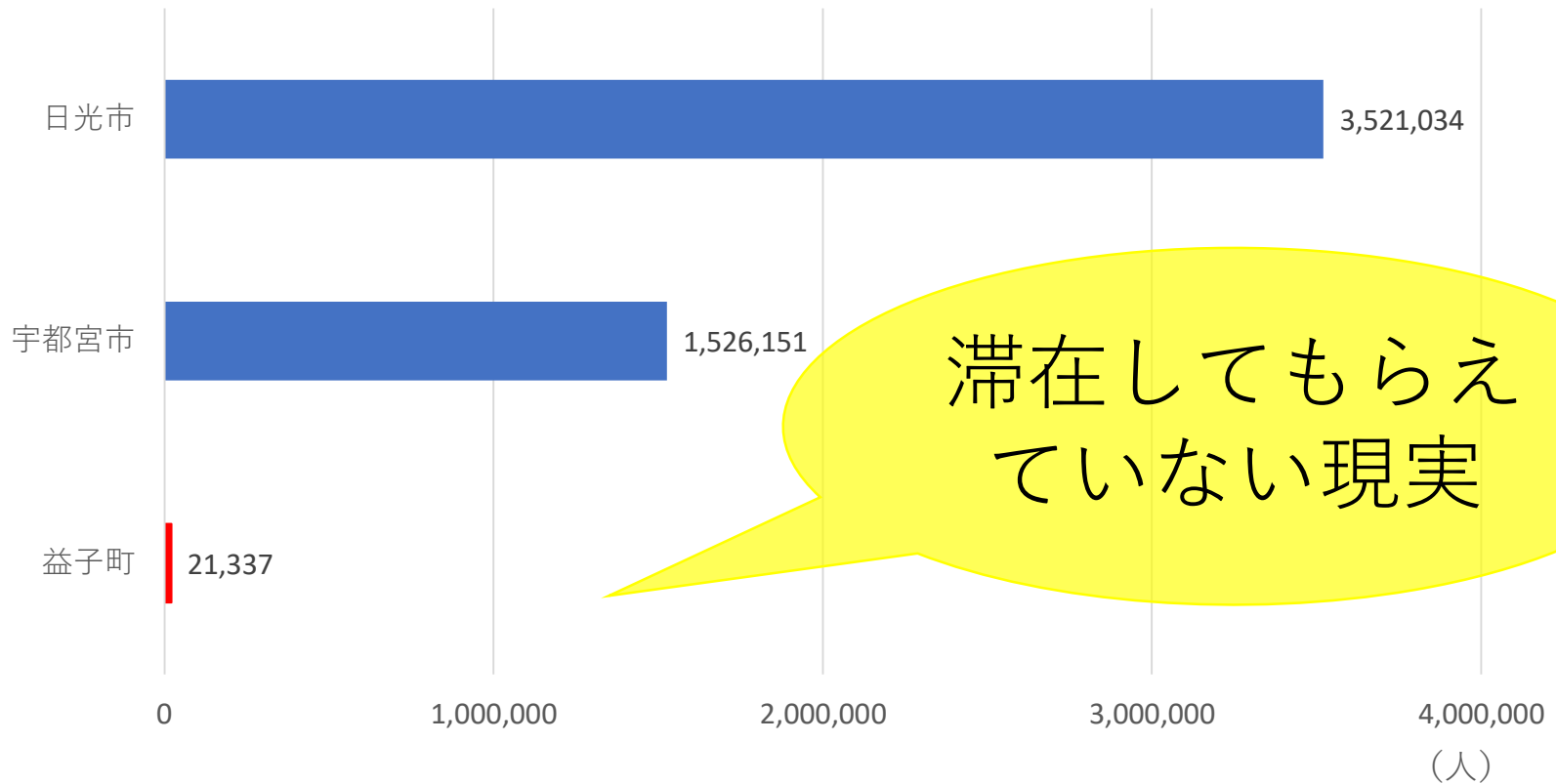
『平成 29（2017）年 栃木県観光客入込数・宿泊数 推定  
調査結果』より



栃木県産業労働観光部観光交流課(2017)「平成 29（2017）年 栃  
木県観光客入込数・宿泊数 推定調査結果」

# 平成27年度市町村別観光客宿泊数

(「平成27年栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果」より)





# 益子には資源がたくさんあります



藍染め



地酒



特産品の数々



美しい風景



街並み

観光協会を含め、  
益子の**資源価値が**  
**認識されていない**

**地域資源の**  
**ブランド化が**  
されていない

## 課題

益子焼が陶器市  
以外での  
**消費活動に**  
**つながりにくい**

**滞在型の観光客**  
が少ない

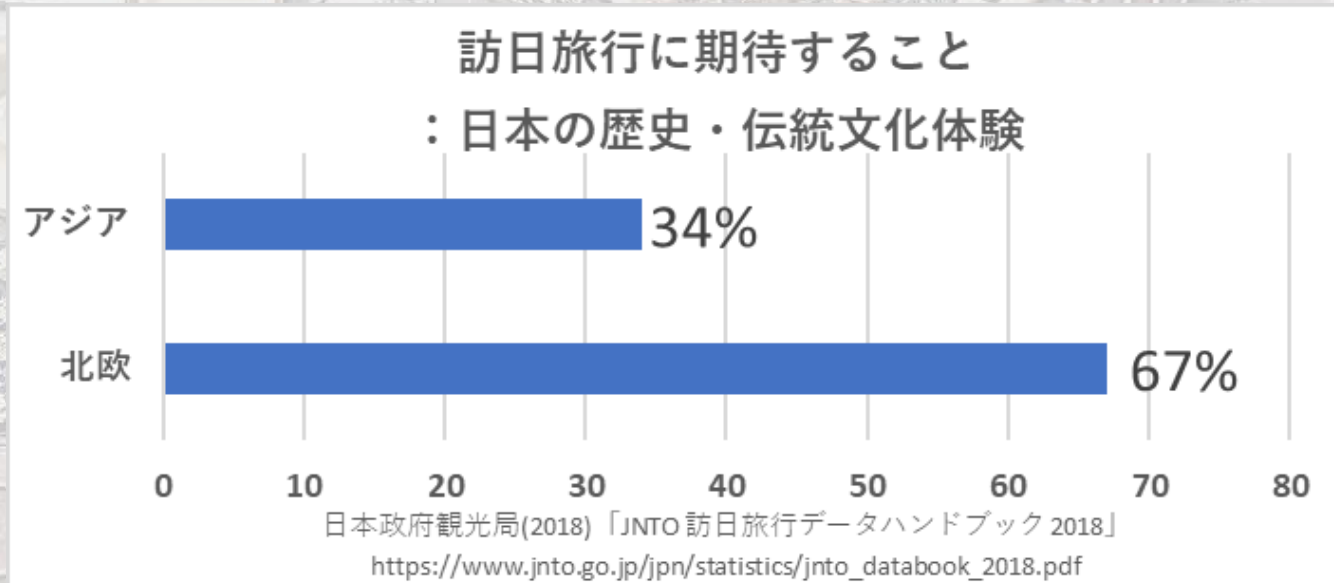




③ プラン提案

# ターゲット

益子町は伝統的な資源を数多く持つ。



益子町の資源により期待値を高く持つ

**北欧圏**

→中でも**陶芸の文化のある国**



# ターゲットの国

## ○イタリア人

ファエンツァのマヨリカ陶器、  
フィレンツェで行われる世界  
陶器市など陶芸文化の根付く国。  
陶芸留学先としても人気



○オーストラリア人  
国内に100校以上ある専門  
学校TAFEなどへの陶芸留学  
あり。

## ○ドイツ人

・東洋の陶器文化に影響を  
受けている。  
・陶器の都市ヘール・グレ  
ンツハウゼン市など陶器  
ネットワーク拡大を図る都  
市がある。



皆さん、

# アルベルゴ・ディフーズ

ってご存じですか?



# Alberghi Diffusi

“Alberghi”=「ホテル」、

“Diffusi”=「分散、拡散した」

イタリア発祥の取り組みで、  
**ホテルの機能を村全体に広げる**  
ことを指す。

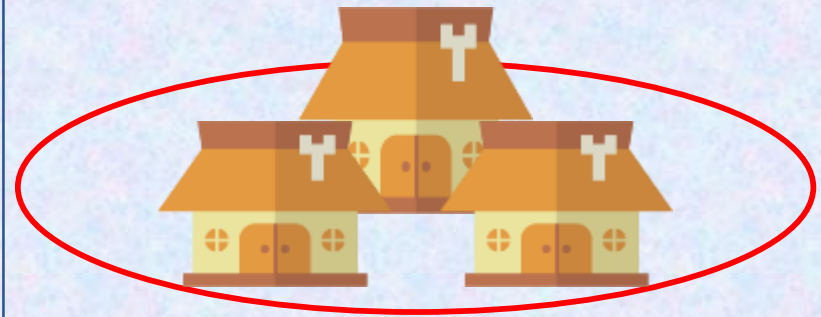
村の広場は「ロビー」、  
通りは「廊下」、村の家は「客室」  
の様に、**村全体でホテルのホスピタリティ**  
を演出している。

また空き家も活用している為、  
**村の景観を乱すことなく実現。**



ホテルの機能  
・ 受付  
・ 客室  
・ 画一されたサービス

etc



地域の文化や風土に合わせた  
その土地でしか味わえない  
特別なホスピタリティを実現



私たちは「アルベルゴディフーズ」を参考にし、益子町が世界に誇る伝統文化「益子焼」をコアに、町全体に学校の機能を分散し、世界中から陶芸家が集まる全く新しい滞在型観光地を提案いたします。



**Mashiko International Pottery Town**

# 機能①：教室

- 益子町にある存在する60以上の窯元。その一軒一軒がすべて益子焼を学ぶための教室。
- 益子町の陶芸家の方々が担任の先生となり、留学生は陶芸家に直接学ぶ。
- 伝統的な登り窯も工房として利用することで、町の伝統文化の再興につなぐことが可能。

伝統的な登り窯



焼き物のお店が並ぶメイン通り





# 機能②：食堂

- 町にある多数のお蕎麦屋さんや、おしゃれなパン屋さんやカフェが存在。これらの飲食店を「食堂」として利用。学生はリーズナブルな値段で、毎日益子の豊かな食を堪能することができる。
- 蕎麦の現地調達率を100%にすることで、日本の中でも際立つブランドにするべく地産地消を徹底。





# 機能③：寮

- 留学生は町外のホテルではなく、益子にある宿泊施設で生活。
- 空き家バンクに登録してある空き家も活用し、留学生を町全体に分散し滞在してもらうことで、町全体が日常生活レベルで多文化に触れ合うことが可能に。

陶芸体験もできるゲストハウス「益子陶芸倶楽部」



# 機能④：校外学習

- 留学生には月に一度町の観光資源に出かけ、益子町の魅力を多角的に捉えてもらう。
- また月に一度地元の小中学生との陶芸制作を企画。子供たちは町内で毎年たくさんの外国人との国際交流ができるようになる。

200年の歴史を持つ  
「日下田藍染工房」



海外でも数々の賞を受賞している  
「外池酒造店」





# 機能⑤：文化祭

- 留学の最後に、半年に一度行われる「世界の陶器市 in Mashiko」に参加。半年の留学で作上げたものを展示・販売。県外のみならず、世界中の陶芸ファンを呼び寄せ、世界に名だたる陶芸の町として益子町をアピール。
- ↓
- 今まで陶器市以外に目立った消費が生まれなかった益子町の新たな風物詩として、益子町に一年中観光消費が生まれる仕組みを提供。



※イメージ図



# その他

- 町内のレンタサイクルスポットを現在の7か所から15か所に増やすことで町内移動をしやすくする。  
→留学目的ではない短期滞在者にも快適に町を観光してもらえる仕組みを作る



# モデルフロー



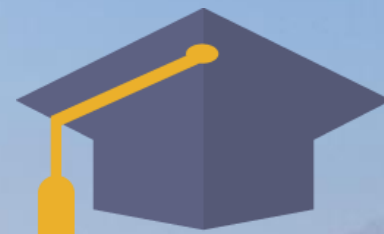
4月

留学生生活スタート  
益子町町民センター  
で入学式を行う



5～8月

陶芸作品製作期間。  
陶芸だけではなく、益子内  
での遠足や、町民との触れ  
合いなど多くのイベントで  
益子の魅力を感じる



9月

留学の成果物を文化祭にて  
展示発表、販売。  
卒業式を行い、半年間の  
留学生生活が終了

6月



# 実現可能性

益子町の各組合や中小企業が協力し陶芸学校に即し、  
「地域資源活用事業計画」を策定。  
国からの認定を受けることで、法的措置や予算措置など  
産官共同のまちづくりを実現します。

益子焼  
協同組合

益子町  
商工会

益子町  
役場

「地域資源活用事業計画」を作成



産官連携のまちづくり



# ④PR方法

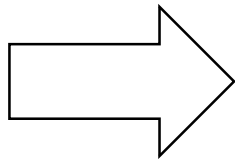


# 1. Facebook上での情報発信

-ターゲット国内での圧倒的なシェア

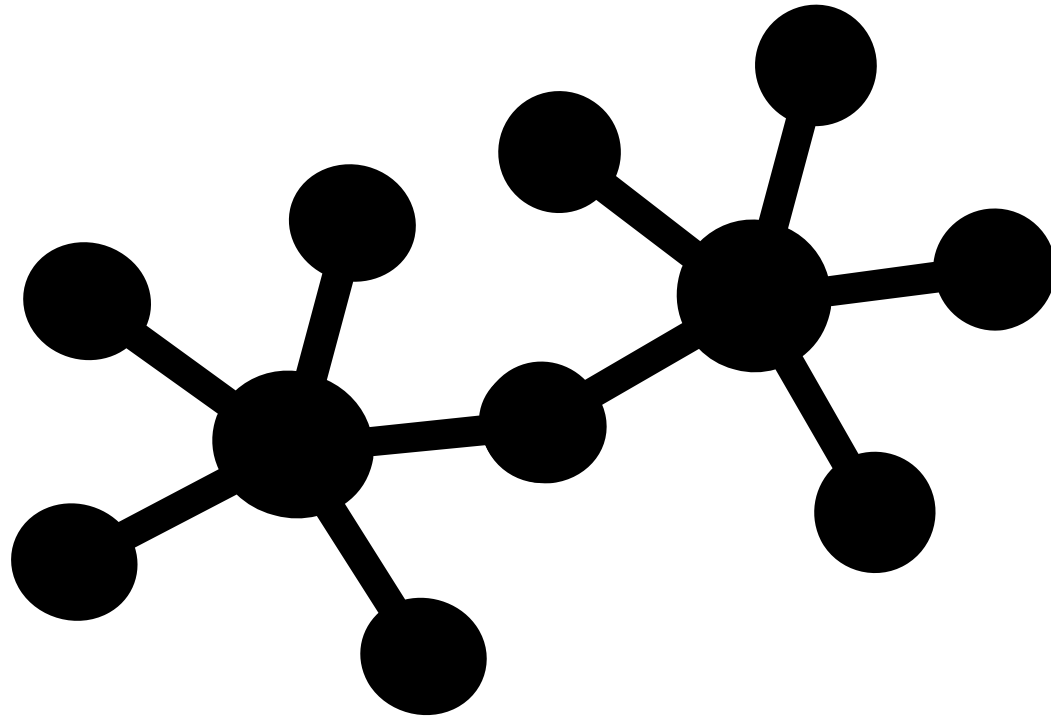
-既存の益子関連のFacebookアカウントを活用

益子町（約1500人） 益子町観光協会（約2300人）  
道の駅ましこ（約2900人）



バラバラの発信源を一つにまとめ  
効果的かつ魅力的な情報発信に変える





## 2. 陶芸プラットフォーム 「Pottery World」の開設

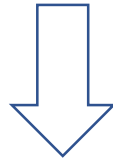
「Pottery World」とは？  
詳細



# 2.Pottery World とは？

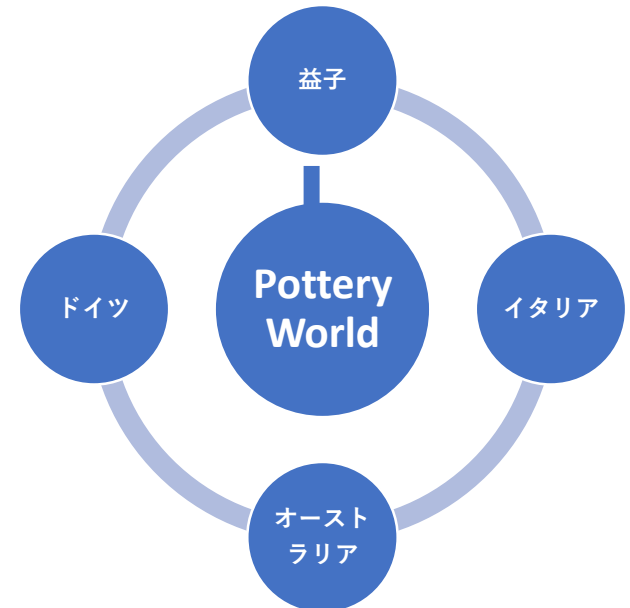
## 現状

- 陶芸に興味を持っても情報源が少ない...
- 世界的に陶芸家は減少傾向にある...



益子を中心に  
世界の陶芸に興味がある人のために  
世界の陶芸家&陶器情報を収集・整理して  
陶芸情報のやりとりや売買ができる  
陶芸プラットフォームを作成

世界の陶芸コミュニティを  
益子中心に盛り上げていく

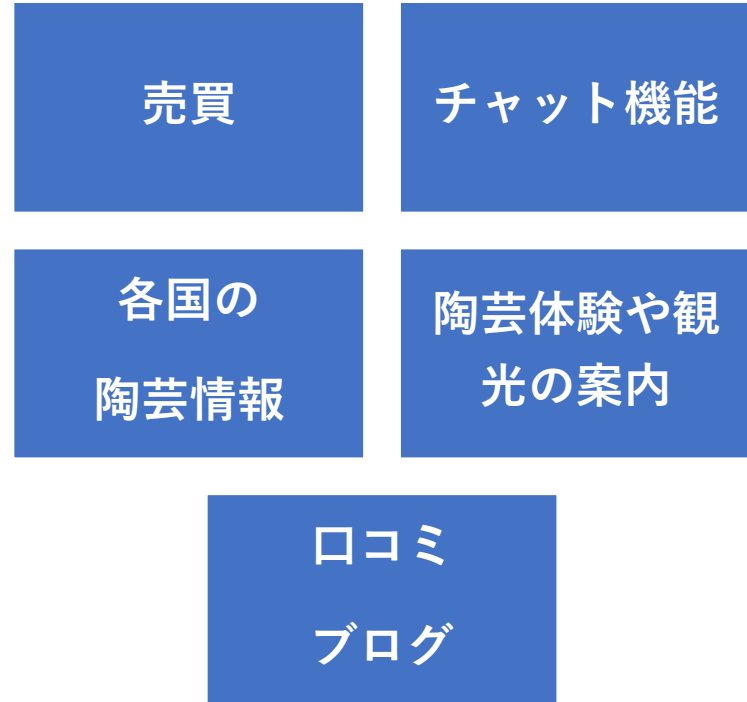


# 2. Pottery World

# 詳細



(<http://www.tougeizanmai.com>)



伝統産業が衰退しつつある今だからこそ、益子を中心として世界的な陶芸プラットフォームを作り上げることに意味がある。

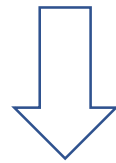
そして・・・

益子焼を世界的なブランドとしてPRして、  
世界から益子焼に興味を持った人々に来てもらう



# 3. 世界の陶芸学校との交換留学

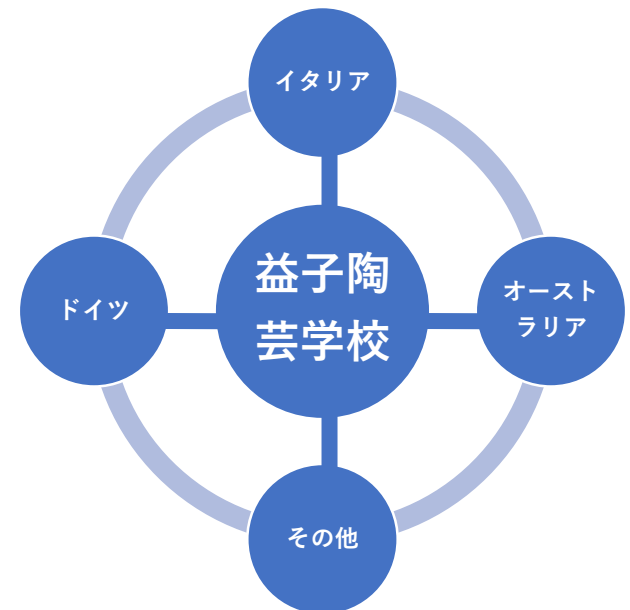
-ターゲット（イタリア・オーストラリア・ドイツ）を中心に世界の陶芸学校と連携した交換留学を実施する



・「陶芸」を通して、世界の人々が自由に国境を越え学べるようにする

・交換留学で益子焼の魅力を世界に発信する

・様々な背景を持つ人々が益子に訪れることで  
多文化共生の精神を町に育む





## ⑤効果



# 1.経済効果

- ・ 陶器留学の費用

6ヶ月間費用（生活費＋学費） 一人当たり

**= 828,000円**



・ 6ヶ月間の生徒人数が40人だとすると...  
年間...生徒80人 × 828,000円で

**= 66,240,000円 の経済効果**

**アルベルゴ・ディフーズの仕組みによって  
この利益を地域に分散できる**


## 2. その他の経済効果

- 学校の文化祭「世界の陶器市 in Mashiko」で生まれる経済効果
- 分散型学校の仕組みで、生徒が町を循環するため地域内の交流の活発化
- 陶芸プラットフォーム「Pottery World」で関係人口が増加
- 留学生の情報発信による益子ブランドの向上と観光客の増加
- 留学生の移住と定着

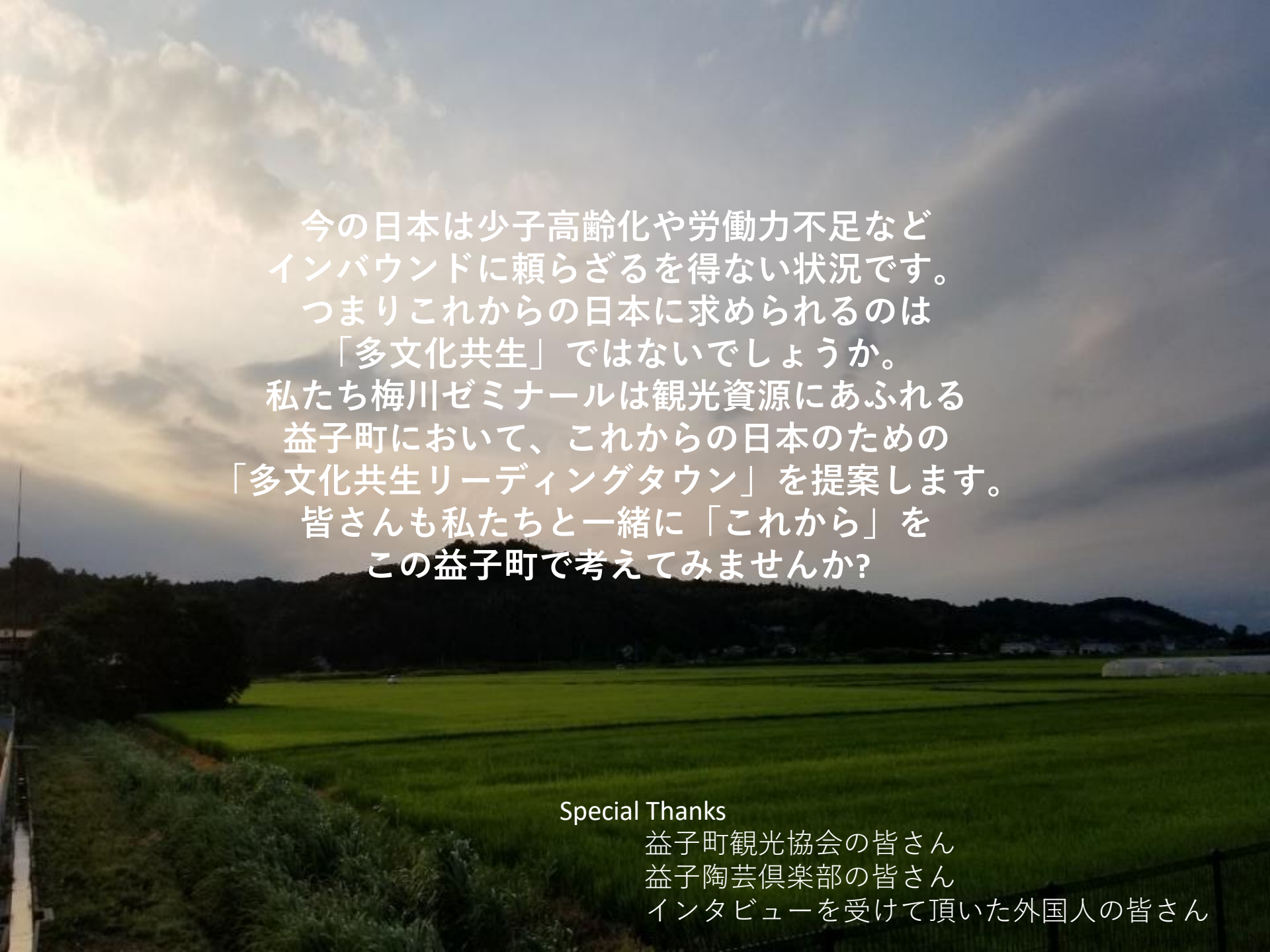


留学生が来ることで、様々な経済効果が二次的に発生する





⑥まとめ



今の日本は少子高齢化や労働力不足など  
インバウンドに頼らざるを得ない状況です。  
つまりこれからの日本に求められるのは  
「多文化共生」ではないでしょうか。  
私たち梅川ゼミナールは観光資源にあふれる  
益子町において、これからの日本のための  
「多文化共生リーディングタウン」を提案します。  
皆さんも私たちと一緒に「これから」を  
この益子町で考えてみませんか？

#### Special Thanks

益子町観光協会の皆さん

益子陶芸倶楽部の皆さん

インタビューを受けて頂いた外国人の皆さん